

全国学力・学習状況調査の結果概要

洞爺湖町の子どもの学力向上を目指して

■問合せ 教育委員会教育推進課（☎74-3009）

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果

をお知らせします。調査対象は、全国の小学6年生と中学3年生で、洞爺湖町では小学校3校（44人）、中学校2校（31人）の全5校が参加しました。国語、算数・数学、英語（中学生のみ）の学力調査と生活や学習習慣に関する児童・生徒への質問調査、学習指導に関する学校質問調査を行いました。

学力調査の結果（平均正答率）は下記の表のとおりです。また、レーダーチャート（円形のグラフ）で学力の概要、児童・生徒質問調査さらに当町の学力向上対策の概要もお伝えします。

▼各教科の平均正答率

「中学校英語」は、4技能（聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと）の平均IRT（項目反応理論）スコアを記載しています。

年 度		小学校		中学校		
		国語	算数	国語	数学	英語
令和8年度	洞爺湖町	55.0%	48.0%	57.0%	48.0%	449
	北海道（公立）	59.6%	53.6%	63.3%	55.0%	489
	全国（公立）	60.9%	56.4%	63.9%	57.0%	499
令和7年度	洞爺湖町	63.0%	45.0%	48.0%	33.0%	
	北海道（公立）	65.0%	55.0%	54.0%	47.0%	
	全国（公立）	67.0%	58.0%	54.3%	48.3%	

1

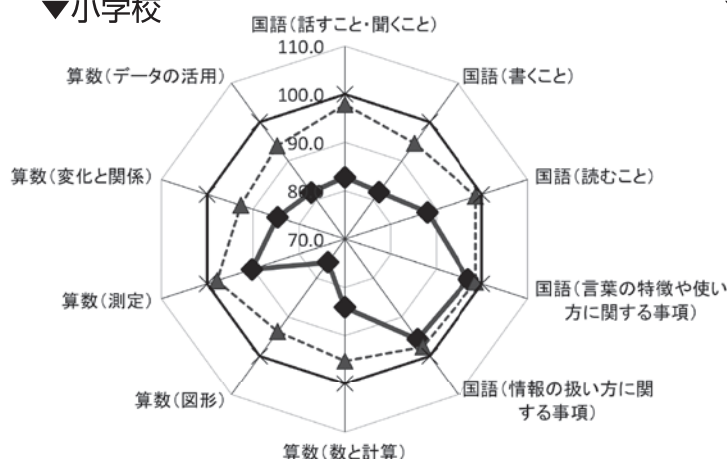
教科全体の状況

◆ 洞爺湖町 ▲ 北海道（公立） ✕ 全国（公立）

【レーダーチャート】

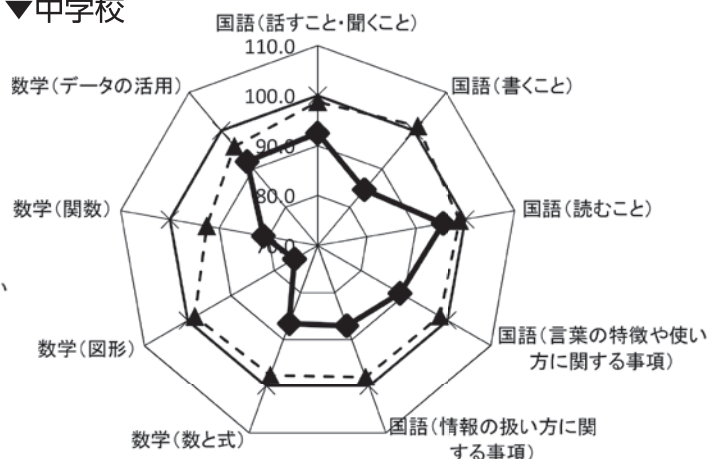
- ・各教科の領域別に全国を100とした場合の全道および市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
- ・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートには表示していません

▼小学校



小学校の国語は「言葉の特徴や使い方にに関する事項」と「情報の扱い方にに関する事項」で全国、全道と同等の正答率である。また、小学校の算数は選択式の問題では正しい解答を導くことができている。

▼中学校

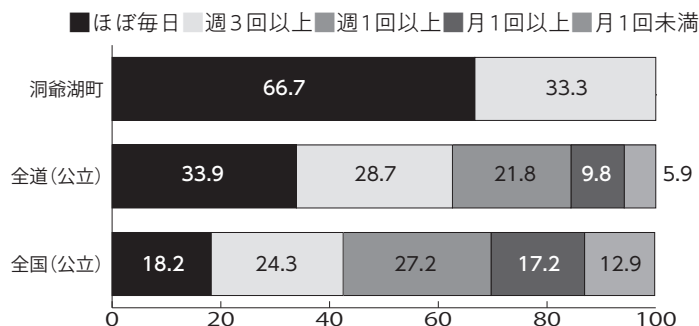


中学校の国語は「読むこと」の領域と「話すこと・聞くこと」の領域で全国、全道と同等の正答率である。また、中学校の数学においては「データの活用」の領域で全道と同等の正答率だった。

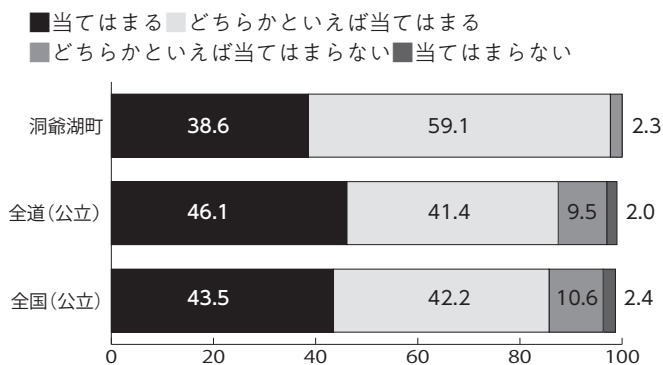
2 児童・生徒質問調査の状況

▼小学校

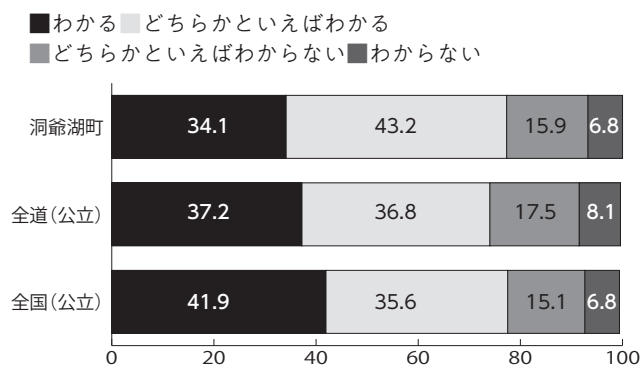
＜学校質問＞児童同士がやりとりする場面では、児童一人ひとりに配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



＜児童質問＞学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

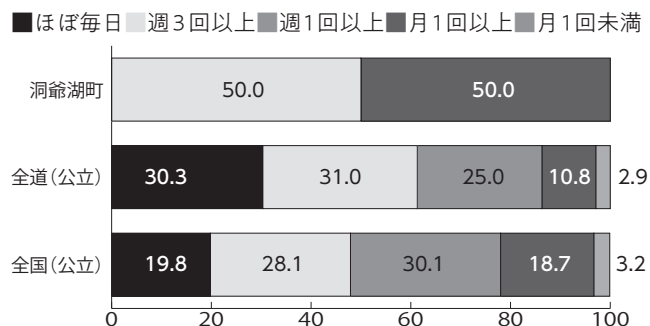


＜児童質問＞算数の授業の内容はよくわかりますか

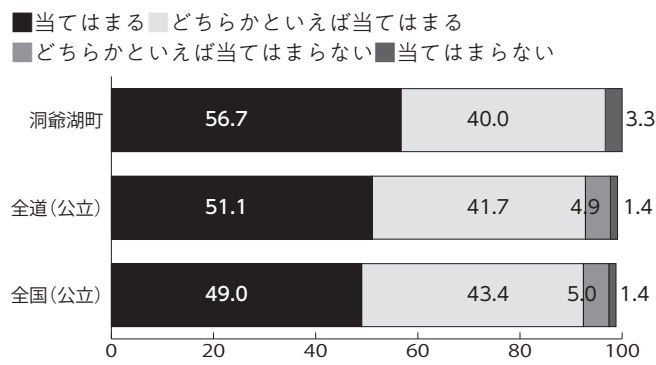


▼中学校

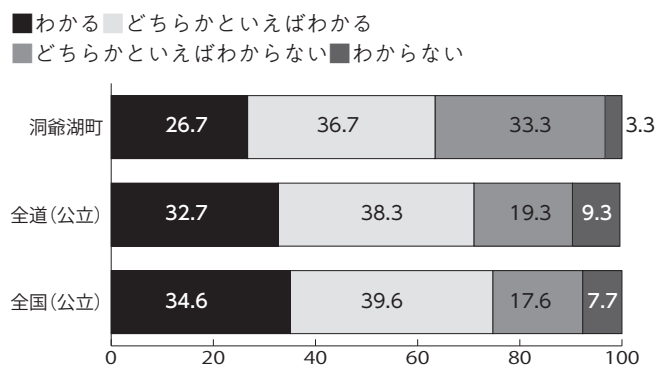
＜学校質問＞生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人ひとりに配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



＜生徒質問＞授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



＜生徒質問＞数学の授業の内容はよくわかりますか



▼成果として捉えていること

- ・ICTの有効活用で児童生徒同士の意見や考えを交流できる幅が広がり、国語の「考えの根拠を明確にすること」や「情報の関連付け」など「情報の取扱い」の調査結果が小6で全国と同等になったと考えられる
- ・授業改善の過程で、児童生徒が互いの考えを共有して協働的な学びを行い、課題解決の過程を委ねる主体的な学びを推進することと「互いの考えを尊重しながら課題解決に向かう姿勢」が、全国の数値を上回ったと考えられる
- ▼課題として捉えていること
- ・「算数・数学がよく分かる」と回答した児童生徒が全国と同等だが、「算数・数学が好き」と回答する児童生徒の割合が全国を大きく下回っている。「よく分かる」との回答と児童生徒一人ひとりの学力の定着が乖離している一つの要因として捉えている
- ▼今後の改善方針
- ・各教科で「好き」や「得意」「わかる」を育む授業改善を進め、児童生徒が自らの学びを構築して学びを深める実践力を育む
- ・授業の理解度などに応じた指導方法の工夫と改善を図り、児童生徒の資質と能力の定着を図る組織体制と、授業改善を含めた環境づくりを行う
- ・小中連携、小中一貫教育の推進による小中教員間の交流を活性化し、教科指導の専門性を高める研修の充実を図る